

チームワーク能力が向上する プロセスの検討（2） —構成要素間の関連に着目して—

太幡直也（愛知学院大学）

キーワード：トレーニング，チームワーク，チームワーク能力の構成要素

チームワーク能力（チームワークを発揮する個人の能力）は，トレーニングによって向上すると考えられている。太幡（2016）は，大学の半期（15回）の授業全体で実施する，大学生のチームワーク能力を向上させるトレーニングを開発した。そして，トレーニング後にチームワーク能力が向上することを示した（太幡，2016，2017a，2017b）。しかし，チームワーク能力が向上するプロセスは明らかにされていない。

本研究では，チームワーク能力の構成要素間の関連に着目し，太幡（2016）のトレーニングにおいてチームワーク能力が向上するプロセスを検証する。チームワーク能力には構成要素が仮定されている（Dickinson & McIntyre, 1997; Salas, Sims, & Burke, 2005）。太幡（2016）のトレーニングの構成は，“コミュニケーション能力”がその他の能力の基盤となるという仮定（相川・高本・杉森・古屋，2012; Dickinson & McIntyre, 1997）に基づいている。すなわち，前半（8回）は“コミュニケーション能力”に関する，聴く，説得するスキル，後半（7回）は残りの能力に関するトレーニングで構成される。本研究では，前半，後半の“コミュニケーション能力”の向上と，後半のその他の能力の向上との関連を検討する。

方 法

調査対象者 2016年に，中部地方の私立大学A大学の授業内で実施された太幡（2016）のトレーニングに参加した，33名（男性19名，女性14名，Time1の調査時の平均年齢19.27歳（SD = 0.45））を分析対象とした。

質問紙の構成 調査は，事前（Time1），前半のトレーニング実施後（Time2），すべてのトレーニング実施後（Time3）の3回実施した。相川他（2012）のチームワークを構成する五つの能力を測定する尺度に6件法で回答を求めた（ $\alpha = .66 \sim .91$ ）。下位尺度ごとに，あてはまると回答するほど得点が

高くなるように得点を算出した。

結果と考察

“コミュニケーション能力”に関する“解読”と“記号化”は，前半，後半の能力向上得点を算出した。そして，その他の能力の，後半の能力向上得点との相関係数を算出した（Table1）。その結果，ほとんどの能力は，前半，後半の“解読”と“記号化”の向上のいずれかと正の相関がみられた。このことから，太幡（2016）のトレーニングでは，“コミュニケーション能力”の向上がその他の能力の向上に寄与しており，能力によって“コミュニケーション能力”の向上が寄与する時点が異なると想定される。

Table 1 “コミュニケーション能力”の向上得点と，その他の能力の向上得点（後半）との相関係数（ $N=33$ ）

	前半 (Time2-Time1)		後半 (Time3-Time2)	
	解読	符号化	解読	符号化
チーム志向能力				
同調	-.07	-.43**	-.23	-.14
調和	.08	-.13	.54**	.46**
自主	.13	.27	-.08	-.04
バックアップ能力				
情緒支援	-.01	.17	.50**	.45**
情報支援	-.14	.14	.54**	.70***
手段支援	-.19	-.27	.39*	.51**
モニタリング能力				
状況把握	.24	.19	.24	.37*
調整思考	.46**	.28	-.02	-.05
意見比較	.26	.45**	-.05	.03
リーダーシップ能力				
遂行指導	.20	.24	.38*	.27
関係構築	.09	.18	.60***	.33
公平対応	.48**	.39*	.28	.09
問題対処	.37*	.37*	.05	.06

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$.

注）本研究はJSPS科研費16K17319の助成を受けた。